第６回 福岡市緑の基本計画検討委員会 議事要旨

１ 日時
　令和７年７月３１日（木）１０時００分 から １２時００分 まで
２ 場所
　福岡市役所１５階　講堂
３ 出席者
　西川副委員長、猪野委員、今井委員、耘野委員、椛田委員、酒井委員、藤田委員
　※欠席（朝廣委員長、大寳委員、佐藤委員、勢一委員、バート委員）
　※委員長の欠席に伴い、「福岡市緑の基本計画検討委員会設置要綱」第５条第４項に基づき、西川副委員長が委員長を代理
４ 会議次第
　１　開会
　２　議事
　（１）資料説明
　　①検討の手順（案）および第６回委員会の検討事項
　　②骨子案
　（２）討議
　３　閉会

委員からの主な意見

委員　・P.76 の図について、「グリーンインフラの推進」が下部にあって目立たないため、上に移動してはどうか。

委員　・P.77 の「うち、永続性のあるみどりの面積」について、現状値から目標値の間に約 140ha の差があるが、P.36 の表 2-3 に示されている各種緑地を増やしていくことで約 140ha を確保する見込みがあるという認識でよいか。

事務局　・P.77 の「うち、永続性のあるみどりの面積」については、P.36 の表 2-3 に示しているみどりの種類毎に、今後増やしていく量を積み上げて目標値を設定している。

委員　・永続性のあるみどりの確保は重要。さらに次の 10 年間は「永続性のないみどり」（※法令により土地利用転換が規制されている緑地等以外のみどり）を積み上げていくことも重要になると思う。次期計画策定後は、永続性のないみどり」を含めた市内のみどりの量を経年的に追っていただく必要があると思う。

委員　・P.55 の「市民・企業によるみどりのまちづくり活動への参加状況」について、公園愛護会の団体数や活動内容、活動の様子の写真が掲載されて大変良いと思う。

・一方、「高齢化及び担い手不足等の理由で活動継続が困難となり、解散する事例もある。そのため、新たな担い手としての周辺の企業等の参画を促進するなど、愛護会活動をサポートする仕組みが必要です。」とあるが、具体的にどのようにサポートするかが書かれていない。なので、制度を整えるだけでなく、伴走しながら協働で進めていこうとする姿勢が示されると良いと思う。

委員　・P.55～57 は、各ページに写真が１枚しかないのは寂しいと感じるので、もう１枚ずつ写真があっても良い気がする。

委員　・P.57～58 の一人一花運動について、現在多くの企業が協賛しているが、今後の見通しがあれば教えていただきたい。

事務局　・一人一花運動は、今後も取組みを広げていく大きな方向性を計画内に示しているところである。具体的な目標値としては、P.79 の「うち、一人一花運動関連制度への登録数」のとおりである。

・P.57～58 の写真の件は今後改善したいと思う。

委員　・次期計画策定以降の次の段階として、例えば、一人一花運動で花壇がどのくらい増えたかが数値として分かるようになると良い。現段階はどれだけの人が参加したかを示しているが、その活動が環境に対する良い影響に繋がっているはずである。そのことを面積値などで定量的に示すことができると、一人一花運動が単に市民参加のまちづくり手法というだけではなく、環境に対するまちづくりにも関わっているということを示すことに繋がるのではないかと思う。

委員　・P.77 について、これまでの委員会での議論を踏まえて、総括目標の「都市緑化による CO2 吸収量」が前計画から継承されているのが非常に良い。目標設定方法について、特に CO2 吸収量の算定方法を他自治体から質問されるのではないかと思う。詳しい算定方法を計画のどこかで示してもよいのかもしれないと思った。

委員　・P.57 の「地域の花・森づくり活動団体」について、「前計画策定時の 2009 年と比較して 5 倍以上増加しています。」と書かれているが、この勢いを維持するような今後の希望のようなものを書いておいた方が良いと思う。

・P.78 の「市民や企業が主体となって新たに緑化を行った件数」について、目標値が 1,500 件となっているが、これはどのような考え方で設定したのか。

事務局　・10 年間で毎年 150 件の想定で設定しており、見込みの団体数を踏まえたものである。内訳として最も多く占めているのは、今年度から始まったグリーンビル促進事業であり、都心部のオフィスビル等の建物の壁面緑化や、全市を対象としたベランダ緑化などに対して助成する事業である。

委員　・計画の策定においては、目標値の考え方やエビデンスが大切だと思う。

委員　・P.57 に「前計画策定時の 2009 年と比較して 5 倍以上増加しています。」とあるが、近年運営上の問題が起こってきており減少し始めているという印象である。この問題をどうするのかという未来展望のような一言があっても良いと思った。

委員　・P.40～41 の「施策の変遷」について、「緑地政策の変遷」の列が国、県、市を区別せずに記載されているため、読んでいると混乱してしまう。福岡市の取組みがより強調されると分かりやすい。

・表中の太字表現に、市の施策もあれば国の政策もあり、何を基準に太字にしているのかが分かりにくい。

委員　・P.40～41 は福岡市らしさが伝わる表になると良い。例えば、景観緑三法の制定を受けて福岡市みどり基本計画を策定した等、関連動向との関係性が分かると良い。

・せめて、福岡市に関連する事項には印を付ける等、何か工夫できると良い。

・福岡市らしさを掘り下げるとさらに良いものになると思う。

・全国的な都市公園整備の始まりとして太政官布達のことを表に加えてほしい。また、令和７年度の福岡市庁舎の緑化についても加えていただきたい。

委員　・P.29 の福岡城潮見櫓の移築復元の写真が建物にフォーカスしている。そのため、歴史・文化の景観がみどりも含めて復元されたという視点で引きの写真にすると良いと思う。

・P.65 の整備前と整備後の写真について、整備前後で空間がどう変わったかが伝わるように同じアングルにした方が良いと思う。

委員　・P.28～29 の写真については、みどりの特徴をスケールの違いで表現しているのではないかと思った。博多湾と海の中道、山の風景等の大きなスケールで捉えたみどりから、公園内のみどりや歴史・文化施設とともに存在するみどり等のヒューマンスケールで捉えたみどりになっている。このページも教科書として使いやすいと思う。教科書として使いやすいということは市民にも分かりやすいということだと思うので、このページをどう作るかは重要だと思う。

・整備前後の写真については、整備によって何が良くなったかを分かるようにする必要がある。必ずしも同じアングルでなくても、何が良くなったかが伝わる写真を選んでいただければと思う。

委員　・P.40～41 の「地域生物多様性増進法の制定」は、令和６年に公布、令和７年に施行となった。「制定」という表現を用いる場合は令和６年度に記載した方がより正確である。

・P.21 の「グリーンインフラ推進戦略 2023 の策定」は記載場所が１年ずれており、正しくは 2023 年だと思う。

委員　・今後 10 年間の計画で PDCA を掲げるのは時代遅れのように感じる。PDCA はそれを掲げる者を主体とした考え方で、今回で言えば福岡市ということになる。市が計画して、市が実行するというサイクルの中では、その他の主体を巻き込めない構造になっているため、現代にはあまりそぐわないように感じる。最近は OODA ループという考え方が主流になっている。

委員　・みどりの状況を市民にしっかりと示すことは私も重要だと思う。そのためには、市民等の主体も含めて市のみどりに関わる仕組みが必要である。

事務局　・PDCA は現行計画を踏襲しており、ご指摘のとおり、主体は全て市になっている。今回は皆で一緒にやっていく姿勢を掲げているため、OODA ループの考え方を参考に検討できればと思う。

委員　・各基本方針の中から自分が関われそうなことを一つ一つ読んで探さないといけないと感じた。市民に関わってもらいたいことを伝えられるまとめ方をしても良いのでは。

・P.90 の図の凡例に「みどりの道の大きな拠点となるみどり」とあるが、表現が分かりにくい。

委員　・第４章に「セントラルパーク構想」という言葉が出てくるが、セントラルパーク構想が何かが分かるような図や写真があると良い。

・「福岡城址・鴻臚館跡」という表現は、古代からの歴史の繋がりを意識して「鴻臚館跡・福岡城址」の方が良い。

事務局　・セントラルパーク構想の説明については何らかの形で示したいと思う。

・福岡城址と鴻臚館跡の順序は、所管課にも確認した上で表現を検討する。

委員　・P.122 に、「持続可能な管理体制の構築、公園の管理体制の充実を図ります。」という記載があるが、行政的な視点が強いと感じた。市民が、自分に何かできることはないかと考えてもらうためには、市民が公園づくりに関わることで、公園が良くなるだけでなく、関わった市民自身の健康づくりや生きがいづくりに繋がるような、前向きなビジョンを示していただくのが良いと思う。

・P.102～103 について、公園の種類ごとに列記されているが、表にするなど工夫できると良い。様々な種類の公園が市内にあることを市民は意外と知らないと思うので、読んで楽しみを感じられるようなデザインになると良いと思う。

委員　・各主体の関わり方を意識することは重要だと感じた。文章のバリアフリー、ユニバーサルデザインのような考え方で、どの読み手が見ても、みどりのまちづくりに関わりたいと思える記載が重要だと思う。単なる行政計画ではなく、市民がみどりに関わる際の教科書として、本計画は最適だと思う。

・P.104 について、都市公園の配置モデルパターンはやや古いと思う。モデルパターンはあくまで一つのモデルであり、福岡市としての考えを示す必要があると思う。

委員　・都市公園の配置モデルパターンはかつて国土交通省が示した一つのモデルであり、今は地域の実情に合わせて、福岡市として独自の配置の考え方を図や文章で示す方が良い。

・「グリーンインフラ」の言葉の使い方については、P.18 で示されている考え方と整合性が図られるよう整理した方が良い。P.105 は「公園をみどりの資産やグリーンインフラとして捉え、憩い・運動・健康・福祉増進などの Well-being の向上や観光振興などの社会課題の解決に寄与するよう、公園の多様な利活用を図ります。」という表現の方が良い。P.110 にも同じような記載があるので確認いただきたい。

・P.115 は「豪雨時の雨水流出抑制のために、グリーンインフラの観点から緑化を進めるとともに、透水性舗装や浸透側溝などの」とした方が良いと思う。P.114 にも同じような記載があるので確認いただきたい。

委員　・P.76 に示されている言葉の中で「ネイチャーポジティブ」や「Well-being」の視点があまり盛り込めていないように感じる。福岡市がどう取り組むのかが伝わってこない。

委員　・第５章について、市民がみどりへの関わり方を考えられるような記載を加えると、市民に読んでもらえるページになるのではないか。

・P.126～127 に関して、読み手にとって、自分が住んでいる地域でみどりにどう関わっていけるのかが分からない状態になっている。もう少し補足していただきたい。

・P.102～105 について、具体的な公園名を入れるだけでも市民が読んだときにその公園を想像できて楽しめると思う。様々な公園制度が、地域のまちづくりにどう反映されているかが分かる文章に書き直せばもっと良くなると思う。

委員　・自分事にしていくことが重要だと思う。ハード面は既に色々と記載されているので、あとはソフトの部分をどう書き込むかだと思う。

委員　・市民は第５章の区別計画をまず読み始めるかもしれない。そう考えると、主な事業と取組みが箇条書きでシンプルに書かれているが、その事業や取組みを市民がイメージでき

るような紹介や、区ごとのユニークな事例や写真があると、各区の地域性や個性が見えて彩りが増えるのではないかと思う。

委員　・市民活動を始めるのは、自分のまちの現況を知って、何かやらないといけないと思った人だと思う。例えば、公園愛護会の活動状況や課題等が書かれていると「そういう状況なら足りないところを埋めようかな」という気持ちにさせると思う。

・市民のモチベーションを上げるためには、市民を動かすメッセージが必要な気がする。「あなたが住む地域はこういう状態です」ということを示して、少しでも「ほっとけないな」という気持ちにさせられればと思う。

・写真を入れて活動の雰囲気や楽しそうな様子を伝えるとともに、公園愛護会の人員や活動量が足りていないというデータが見えると良い。さらに、活動に参加する際の相談窓口が紹介されていると大変ありがたい。一方、ページネーションの考え方からすると、情報が増えると整理が難しくなるので、事務局でうまく整理してほしい。

委員　・一般的なみどりの基本計画はトップダウンのイメージがあるが、ボトムアップの仕組みが盛り込まれると、市民がみどりを介してまちづくりに関わることに結び付くと思う。

・今後ネーミングライツ等を使って、公園に資金を投入していかないといけなくなると思うが、事務局としてはどう考えているか。

事務局　・ネーミングライツはあくまで一つの手法として捉えており、民間事業者にとって興味深い事業手法で、公園に財源を投入してもらいたいと考えている。

・その一つの手法として Park-PFI の導入を進めているが、Park-PFI ほど民間事業者の関わり方が大きくなくても良いと思う。公園愛護会の担い手不足に対して、例えば清掃だけでも協力してくれる地域の企業を登録し、市のホームページで公表するような取組みも進めているところである。そのような活動を今後も広げていきたいと考えている。

委員　・一人一花運動は企業協賛が年々増えている。これは、企業が活動に魅力を感じているからだと思う。市民や企業が魅力を感じる部分を計画に書き足した方が良いということを先ほどから意見いただいており、第５章の区別計画は特にその観点が重要だと思う。

委員　・民間事業者の事務所は中央区や博多区に集中しており、それ以外の区は工夫が必要。

・P.147 に「Fukuoka East&West Coast プロジェクト」を加えていただきたい。

委員　・区別計画の図に Park-PFI を導入する公園の位置が示されているが、例えば、「主な事業と取組み」の下に公園の写真を入れるだけでも、読み手にとって分かりやすくなる。

委員　・基本計画というより具体の施策の話だが、i-tree Eco の導入について検討いただきたいと思う。i-tree Eco を活用すると、樹木の胸高直径と樹種の情報から、炭素固定量や省エネ効果をレポートとして可視化することができる。また、樹木が持つ効用をコストに換算することもできる。市内の特定の公園をモデルに試してみるのも良いと思う。定期的に測定した炭素固定量等を公表すれば、市民の理解にも繋がる。

委員　・DX 活用は、特に福岡市にとって重要なことだと思う。今後も人口が増え、開発が進む中で、みどりが都市にどのような影響を与えているかを把握して、次の取組みに繋げていくことが重要である。

委員　・モニタリング指標として緑視率を設定し、計画期間の中間時と完了時に測定することが

示されているが、モニタリングするのであれば、現時点で現況値も把握しておく必要があると考える。把握しているのか。

事務局　・これから現況値を測定しようと計画している。

・人の往来の多い都市部でみどりの量の変化をモニタリングしていきたいと考えている。市民アンケートで挙げられた「みどりを増やしたい場所」として、天神地区や博多駅周辺地区が多かったことから、これらの地区内で数か所ずつ測定しようと考えている。

委員　・福岡市は人口が増え続けており、今後 10 年は他都市とは異なる成長をしていくことになると思う。人口減少下の都市であれば、保全や管理に資金を投入していくことになるが、福岡市の場合は保全や管理もしながら、開発も進めていくという全体のスキームが必要になる。

・このような背景の中では、特別緑地保全地区の機能維持増進が重要になると考えている。福岡市内に多くの特別緑地保全地区があるが、うまく活用されていない。福岡市はこれまで活用できていなかった花壇などを活性化させて資産に変えている点が素晴らしいと思うが、まだ活用できていないみどりもある。公園を増やしていくのは限界があるので、代わりに活用されていない緑地を活用していくことが重要だと思う。

・次期計画期間の 10 年間でさらに次の課題把握をしていくことが重要だと思う。次期計画はとりまとめの段階に入っているので、さらに次の段階に目を向けて今後 10 年間を取り組んでいただきたい。

・今回、特に第５章について多くの意見をいただいた。ボトムアップの取組みを充実できると、上からの考え方と下からの取組みが繋がり、素晴らしい計画になると思う。

事務局　・計画を作って終わりということではなく、策定後に市民や企業と共働していくための「関係性のデザイン」が必要と感じた。

・このため、計画には本日いただいた「自分たちに何ができるだろう」を考えていただくためのデータ等を記載しておき、それをフックとしてアクションプラン等についても共働して実行していく際に、OODA ループが有効と感じた。

委員　・策定して完成ではなく、ある程度市民へ投げ掛けるような書き方にして、取組みを進めながら 10 年間で完成させていく意識は重要だと思う。10 年間で成果を積み上げながら、その都度、進捗状況を公表していただきたいと思う。

・実際に動いている取組みを市民に見せていくことが重要である。特に地域の地道な活動状況を公表することは重要だと思う。私はそれを大きな物語と小さな物語と呼んでいるが、その両方がなければ素晴らしいストーリーは生まれない。小さな物語を積み重ねて、10 年後に計画が完成するような考え方になると良い。そのためには、10 年間で何が行われて何が達成されたかを明確にすることが重要である。

・市民がどのように関わるかで、みどりが良い方向にも悪い方向にも変わると思う。

・みどりの基本計画が、市民のみどりの教科書になるのが理想である。福岡市がしっかりと取り組んでいる姿を発信することで、市民の参加にも繋がり、みどりの活用が一層進むのではないかと思う。

以上